

わしたしまの 情熱キーパーソン

行政の人たちと地域みんなが一緒になって動けば、
地域はより快適に、もっとハッピーに。
このコーナーでは、そんな地域づくりに取り組む
地域住民と行政担当者の「協働」について紹介していきます。



団地モデル世帯の皆さん。手にしているのは専用生ゴミ収集袋などを利用した手作りマイバッグです。前列右から二人目が阿波根紀子さん

南風原町はごみの減量化、資源化を促進しようと、平成二十年六月から「生ごみ分別収集飼料堆肥化モデル事業」をスタートしました。
住民環境課の知念功さんは「家庭から出る生ごみを堆肥化するだけでなく、豚の飼料に再生することで、食の循環を目に見えるようなかたちにする」と意欲を見せます。
初年度は百世帯を目標とし、集合住

南風原町 家庭の生ごみを堆肥や飼料 に再生。食の循環システムの 構築を目指す

宅を対象にモデル世帯を募集しました。事業の趣旨に賛同し、まとも役を買って出たのが、南風原第二団地自治会長阿波根紀子さんです。「団地の仲間」に声をかけたところ、二十人ほどが応えてくれましたので、私の方でまとめて申し込みました。月曜から土曜まで、いつでも生ごみが出せるので助かっています」と阿波根さん。活動は口コミで広がり、わずか一カ月ほどで、団地のモデル世帯の数は五十を超える勢いを見せています。
生ごみの排出から収集運搬の流れは、行政、地域住民、NPO法人による協働で進められています。モデル世帯は、生ごみを町から配付される専用の収集袋に入れ、各棟指定の回収専用容器



生ごみ飼料化作業風景。生ごみの中に異物がないか確認後、細かくカットしています

に入れます。NPO法人「のぞみの里作業所」が、その容器を収集し、生ごみを堆肥や飼料にする作業を行います。のぞみの里作業所は、脳卒中で後遺症のある患者の生きがいと健康増進を図ることを目的に設立され、生ごみを堆肥化する事業には実績がありました。「社会を変えるのは台所から。生ごみを再生した飼料は、安全性も高いと思います」と同作業所施設長の永坂生子さん。

一般家庭から出る生ごみの飼料化は、まだ試験的段階ですが、「成功すれば、その飼料で育てた豚のお肉を、モデル世帯へ差し上げたいと思っています」と語る知念さんの夢は広がります。



住民環境課の知念功さん(右端)とのぞみの里作業所の皆さん(右から3人目が永坂生子さん)

南風原町役場 総務部 住民環境課 生活環境班
TEL:098-889-1797

